

”心地よき場所”を繋ぎたい

私の祖母は福岡の田舎町で1人暮らしをしていました。自宅は祖母の父親が建てた家で築100年を超えている家でした。周りにはそのような家が何件もありました。私が小学生の時には夏休みが始まると祖母の家に1ヶ月ほど泊まりに行きました。祖母宅は近くにコンビニやスーパーもなく、たまに来る移動スーパーや、ほとんどは畑で作った野菜を近所の人と分け合って生活していました。毎日朝早くから畑に行き、野菜やお花の手入れをして戻ってきて朝ごはんを作ります。そうこうしていると祖母の家に近所の高齢者の方が1人、2人・・・と集まって朝の談笑が始まります。祖母はコーヒーやお茶、お菓子を出し、玄関口でみんなでおしゃべりをしながら飲んで食べてみんな楽しそうでした。私も祖母宅のお客さんと楽しくお話をしました。そして、お客さんが帰りお昼近くになると、近くの川に泳ぎに連れて行ってくれました。また、山菜や魚、貝など一緒に取りに山や川に行き、料理してくれました。近所の方に会うと、誰もが顔見知りでみんな仲良く挨拶し、立ち止まって話をするようなコミュニティ溢れる田舎町、そんな祖母宅で過ごす夏休みが私は大好きで、毎年夏休みには泊まりに行きました。

祖母は私が18歳の時に突然病気になりました。大好きな自宅に帰ることができなくなり、大好きな人と会うこともできなくなりました。そして数ヶ月後に他界し、祖母宅もしばらくして取り壊されました。今では家の跡地は資材置き場になっており、祖母宅に通っていた近所の仲間もほとんど他界されました。祖母宅がある集落は高齢化がますます進み、農業を辞めたり、畑の管理ができなくなっている状況も少なくないと聞きます。

私は昔の祖母宅のように、地域の人々が気軽に立ち寄れて、まるで第二の故郷（自宅）のような場所ができたらいなと思います。高齢化している地域では、やはりいつもの仲間と過ごしたり、好きなことをいつまでもできるような環境が心身の健康増進にも必要であると考えます。あの頃を思い出せば、祖母宅に通っていた高齢者仲間は年齢も様々で生活背景も様々でしたが、みんなで協力しながらまるで人類皆兄弟と言わんばかりにいろんなものを分け合ったり、他愛もない話で何時間も話したりしていました。そこには温かい居場所があったのだと思います。

私はそんな、昔ならではの暮らしを感じながら、地域の人も立ち寄った人も、ゆっくり集い合えるような田舎のカフェを提案します。そこでは地域の高齢者が働いていて地域のアピールや、昔話を聞く機会になっても素敵だと思いました。今となっては空き家になったり、家を管理する後継者がおらず悩んでおられる方も多いと思います。しかし、昔の人が作って大切にしてきた家は、時代の象徴であり貴重な財産だと思いますので、ぜひ活かしていただきたいと思います。